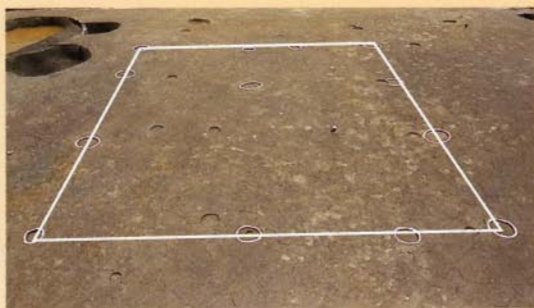


2005年11月5日(土)

すもと いせき

巢本遺跡現地公開資料



ほったてばしら

掘立柱建物全景(西から撮影)

柱穴の底には柱が沈み込まないように、板がすえられていました。



区画溝全景(南から撮影)

溝で囲まれた内側(写真右側)には、おそらく建物が建っていたものと思われます。



まげもの

底を抜いた曲物を三段重ねて造った井戸



井戸

区画溝

掘立柱建物

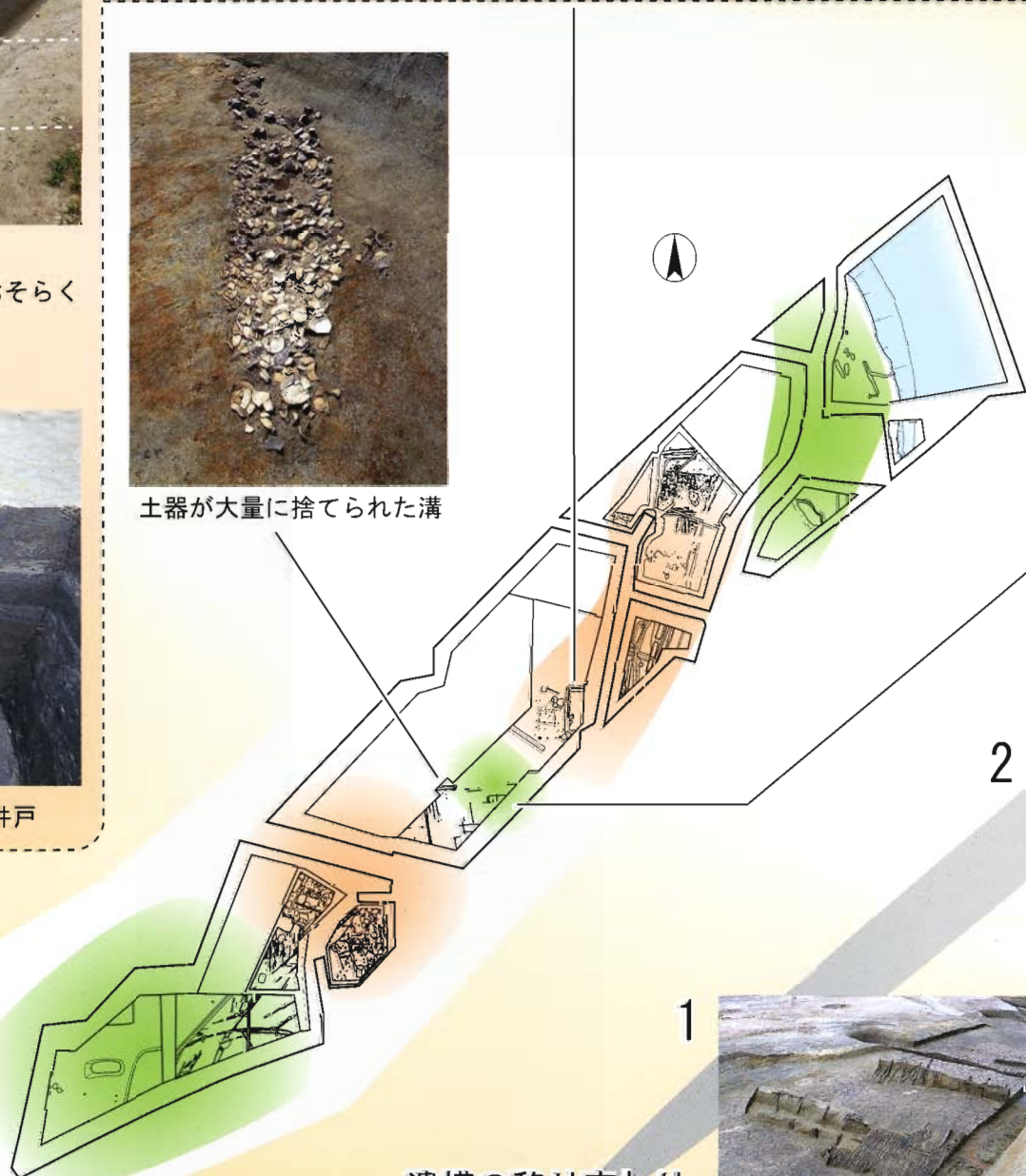
ほったてばしら

掘立柱建物と井戸・溝などがまとまってみつかりました。(南西から撮影)

生活のあと



土器が大量に捨てられた溝



生活のあと



河川・湿地のあと

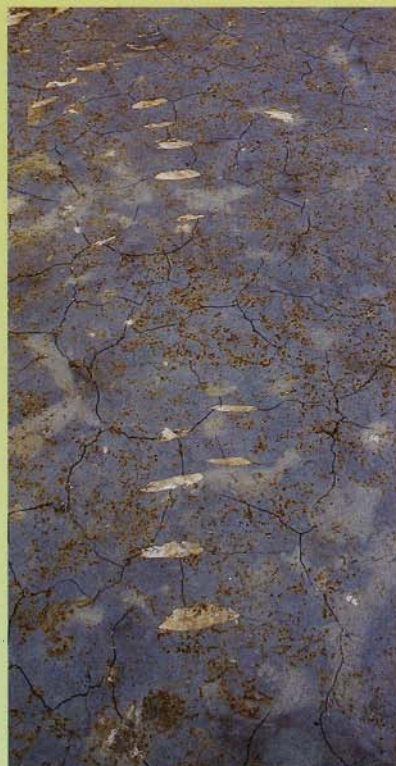


耕作のあと

1



遺構の移り変わり



農具で土を耕したあと

畝、畝間のあと
(砂がたまったところが畝間)

耕作のあと

巢本遺跡は、平成13・14年度に第二京阪道路・大阪北道路(「緑立つ道」)の建設に伴う確認調査で新たに発見された遺跡です。本格的な調査は、国土交通省の委託を受けた財団法人大阪府文化財センターが、大阪府教育委員会の指導のもと、平成16年から開始し、現在も継続中です。

遺跡は寝屋川の南側に位置しています。これまでの調査で中世(13～15世紀)の遺構・遺物がみつき、付近一帯に中世のムラがあったことがわかりました。なお、遺跡周辺は元来、湿地のような場所でしたが、中世に旧寝屋川の洪水によって砂が厚くたまり、生活が可能な場所へ変化したようです。

みつかった遺構には、建物や溝・井戸・土坑などの生活にかかわるものと、畠の畝などの耕作にかかわるものがあります。生活にかかわる遺構は、周囲よりもやや高いところにまどまってあり、耕作にかかわる遺構は、やや低いところにありました。また、遺構にともなう土師器や瓦器、木製品などの遺物もみつっています。

このような調査成果は、いままであまり知られていなかった付近の歴史的環境を考える上で、役立つものといえます。これからの調査によって、さらに昔の生活の一端が明らかになることが期待されます。今後とも、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

3



溝状の穴が埋まったあとでは、建物や井戸・溝・土坑などがまどまってみつかりました。このような遺構は比較的高い場所を選んで造られたようです。建物の柱穴には、当時の柱がそのまま残るものもありました。(右写真)



洪水がおさまると、周辺は湿地のような状態から、人が住める環境へと変化したようです。ここでは大きな溝状の穴がいくつも掘られているのがみつかりました。用途は不明ですが、開発にともなうものと思われます。

現地表から
約1.6m下

現地表から
約1.8m下

現地表から
約2.0m下



中世になると、現場周辺では洪水が頻繁に起こったようです。これはそのときの流路です。流路内には杭が打ち込まれ、竹を縦横に組んだ築のようなものがみつかりました。

